

三菱入退室管理システム “MELSAFETY-P χ ”

Access Control System "MELSAFETY-P χ "

三菱電機のセキュリティシステムとして、2014年6月に“MELSAFETY-P χ ”の発売を開始した。この製品は、多様化するセキュリティ市場のニーズに応え、従来の機種に認証端末のラインアップ(図1)と機能を拡充した、中小規模向けセキュリティパッケージ製品である。その特長は次のとおりである。

(1) Webブラウザによる管理

従来機種は、専用ソフトウェアを管理パソコンにインストールする必要があるため、インシャルコストがユーザーにとって負担となっていた。この製品は、組み込みコントローラにWebサーバを実装し、Webブラウザで入退室情報の管理を行うことができる。したがって専用ソフトウェアのインストールが不要となり、ユーザーの負担を軽減できる(図2)。また、コントローラに、SDカードを搭載することでデータ領域を確保している。

(2) メール通知

メインコントローラにメールクライアント機能を実装することで、警報発生時に客先のメールサーバを介してユーザーに警報の発生をメール送信することができる。メール送信をする日(平日・休日)と時間帯はユーザーで設定が可能であり、無人施設や管理者が常駐しない場合でも運用に合わせて警報の発生有無を知ることができる。

メール送信をする日(平日・休日)と時間帯はユーザーで設定が可能であり、無人施設や管理者が常駐しない場合でも運用に合わせて警報の発生有無を知ることができる。

(3) 特定人物通知

ある特定の個人が扉を通行した際に、注意を喚起する機能を実装した。その方法としては(2)のメール通知によってユーザーに通知することや、ブザーを鳴動させることが可能であり、VIP等の対応に利用できる。

(4) 在室時間監視

在室時間監視を実施するエリアで、在室時間が設定した時間を超過した場合、ブザーを鳴動する機能を実装した。在室時間の制限は、運用に合わせて最小5分から最大24時間までユーザーで設定が可能である。

(5) グラフィック表示・制御

ユーザーで作成した建物平面図を読み込み、その上に扉やセンサ等のシンボルを配置して状態を確認できる機能を実装した。この機能は、コントローラ上のWebサーバに実装しており、Webブラウザで平面図での監視・制御が可能である(図3)。

グラフィック画面上のシンボルをクリックすると、そのシンボルに割り当てられている扉や機器の詳細情報の確認や遠隔制御等ができるようになっている。例えば扉の場合、その扉の通行履歴を確認したり、施解錠や非常解錠制御をしたりすることができる。扉一覧などに表示される名称や扉番号からだけでなく、グラフィック画面上で実際の扉の位置や構成を確認しながら、詳細情報の確認や制御が可能である。

当社の上位機種である“MELSAFETY-G”では、グラフィック画面の変更は専用ツールを用いて実施するのに対し、この製品ではWebブラウザでユーザーが簡単に編集できるようにした。



図1. 認証端末のラインアップ

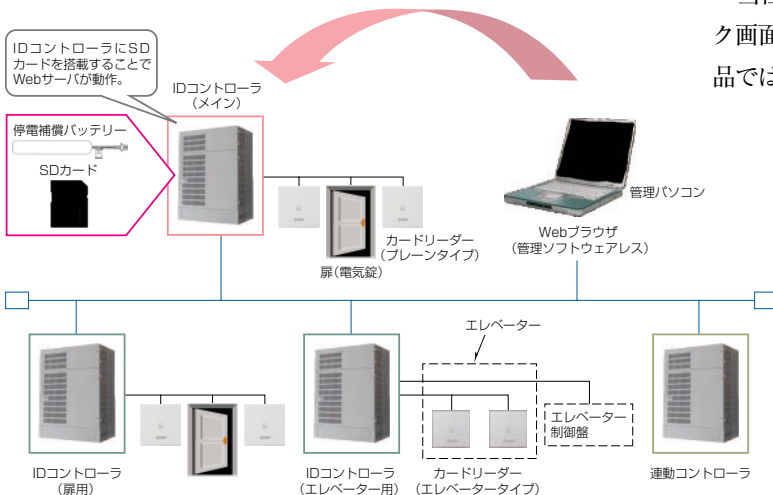


図2. “MELSAFETY-P χ ”システムの構成

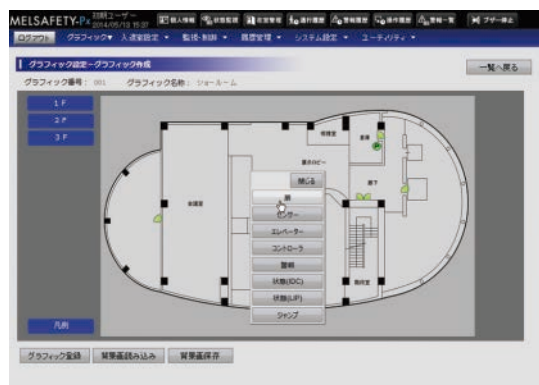


図3. グラフィック画面

エレベーター用タッチパネル式乗場操作盤

Touch Panel-type Hall Operating Panel for Elevators

近年、輸送効率の向上、セキュリティ意識の高揚などを背景に、エレベーター行き先予報システムの需要が多く見込まれるようになってきた。中でも、仕様対応力やデザイン性に優れたタッチパネルを用いた乗場操作盤のニーズが高かったため、今回、新規開発して市場投入した。

(1) 新デザイン

新規タッチパネルを採用し、“建築適合性”“スマート感”“アイコン性”をデザインコンセプトとして、従来デザインを刷新した乗場操作盤を開発した。カードリーダーの有無など、仕様にかかわらず統一デザインとし、重厚感や高級感という印象を与える金属フレームを採用することで、ひと目で分かる三菱エレベーターらしさを追求した。

(2) 機能

乗場のタッチパネルは、行き先階が入力されると乗車するエレベーターを表示する。行き先階ごとに乗車するエレベーターを分けることで輸送効率が向上する。行き先階登録画面は10キーボタン、行き先階ボタンからビル仕様に合

わせて選択できる。操作性を考慮して視認性が高く分かりやすい表示とした。

(3) タッチパネル

10.4インチSVGA(Super Video Graphics Array)液晶を採用した。LEDバックライト光源の採用によって長寿命化(従来比2.5倍)を実現した。投影型静電容量方式の採用で、高精度・高速応答を追求した。



タッチパネル式乗場操作盤

“あべのハルカス” 向け昇降機

Elevators for "ABENO HARUKAS"

“あべのハルカス”は、日本一の超高層ビルとして2014年3月7日に開業した。当社は展望台用、百貨店用にエレベーター12台、エスカレーター58台を納入している。展望台行きシャトルエレベーター(図1)は分速360mで16階から60階まで約45秒で直通運転し、シースルータイプのかご室と昇降路内に設置したLED照明によって、エレベーターが昇降する際に、光で演出された空間を体感できる。LEDは展望台への昇降を飛行機のフライトに見立て、流星群をコンセプトに配置されている。かご内は、天井照明、BGM、高度表示ディスプレイがエレベーターの動きと連動して制御され、エレベーターの速さや高さ、浮遊感を直感的に感



図1. 展望台行きシャトルエレベーターから見た昇降路

じられるよう工夫されている。百貨店用のセンターエレベーター(図2)はインドアオープンのシースルーエレベーターで、タワー館とウイング館を接続する吹き抜け空間に配置されている。そのため、エレベーターが人々の視界を妨げないように、エレベーター機器が可能な限り目立たないよ

うに配慮されている。乗り場の戸のガラス面を広くし、ドア装置を鏡面のカバーで覆うなど、透明感を重視した仕様となっている。また、かご内天井の格子ルーバーは、百貨店1階入口の建築天井とデザインが統一され、エレベーターが建物と調和するように図られている。



図2. 百貨店用センターエレベーター